

2021年応用物理学会春季学術講演会シンポジウム

革新的走査型プローブ顕微鏡技術で拓く ナノプローブ生命科学の新展開

Next Stage of Nanoprobe Life Science Research by Innovative Scanning Probe Microscopy

2021年3月17日(水) 13:30~18:00

オンライン開催

走査型プローブ顕微鏡 (SPM) 技術を用いて、生命現象の起源をナノレベルで理解しようとする「ナノプローブ生命科学」分野における最新の研究成果と将来展望を概観します。脂質、核酸、タンパク質などの分子レベルの研究から、細胞の表面および内部の構造や化学・力学物性を探る細胞レベルの研究まで、各分野の最前線で活躍する著名な研究者をお招きし、最新の研究動向と将来展望をご紹介します。多くの皆さまのご来場をお待ちしております。

招待講演者・演題

山田 啓文(京大)

「液中高分解能AFMによる生体分子イメージングおよび相互作用力可視化」

手老 龍吾(豊橋技科大)

「生体膜モデル系を用いた脂質・膜タンパク質集合体の観察」

内橋 貴之(名古屋大)

「高速原子間力顕微鏡で拓く動的構造生命科学」

岩田 太(静岡大)

「SICMによる細胞・組織の計測とマニピュレーション」

中村 史(AIST)

「ナノニードルで解き明かすがん細胞のメカニクス」

岡嶋 孝治(北大)

「AFMによる発生胚のメカニクス」

お問い合わせ: 福間剛士(金沢大学)

fukuma@staff.kanazawa-u.ac.jp